



2022年度も、みなさまから温かいご支援をいただき、ありがとうございました。新型コロナウイルスの収束に伴い、2022年度後半からは、持続可能な農業・農村開発コースが再開できるように準備をおこなったり、継続的にサポートしている北インドの農村女性たちのモリンガ栽培加工事業や縫製事業の成果がインド国内でも日本でも現れるようにと、広報、販売拡大に力を入れて行いました。今後とも、どうぞご支援を賜りますようお願い申し上げます。

特定非営利活動法人 アーシャ=アジアの農民と歩む会 代表理事 三浦 孝子

## 2022年度（第19期）事業報告（2022年4月1日から2023年3月31日まで）

プロジェクト統括責任者 三浦 照男



2022年7月頃からインドでは新型コロナウイルスの収束がみられ、学校や大学では対面授業が行われ、市中でもマスク着用者がめっきり減った。同時に自粛されていた対面式集会の規制が解かれ、セミナーや啓発活動は以前のように実施できるようになった。しかしながら、中止していた農村人材育成のための9か月研修コース（SCSAD）は再開できなかった。2022年3月開始を予定したJICA草の根技術協力事業（草の根パートナー型）はインド政府当局の承認取り付けが得られず、未だ開始できていない。これは本会運営上、経済的な打撃となったが、アラハバード有機農業組合（AOAC）の自立運営のためにはよい機会となった。農村女性による裁縫事業は、2022年度末でアジア生協協力基金からの助成金供与が終了するので、AOAC同様の自立運営のための販売強化を計った。全体を鑑みれば、事業目標や活動内容を大きく変更することなく遂行できたことは、駐在スタッフ、現地スタッフ、事業に参加した農村ボランティア、およびカウンターパートの理解と尽力によるものであり、また、会員の皆様、役員と国内事務局のスタッフのご支援があつてこそと、ここに深く感謝を申しあげたい。

### I. 特定非営利活動に係る事業

#### 1. 農村開発・農業開発支援事業 持続可能な農業・農村開発・収入向上事業

##### 1-1 貧困農民のための収入向上活動事業

- コロナ感染の収束がみられ、インド国内の経済活動は平常に戻りつつあったが、アラハバード有機農業組合（AOAC）の主な消費者である日本人が家族連れで帰印するケースが少なかったこと、アメリカ、タイに加え、ベトナムからも良質で安価な日本米輸入が増え、更にパンジャブ州で日本企業による大規模な日本米栽培が始まったこともあり、売り上げは期待したようには伸びなかった。しかし、12月以降、長期在印邦人や海外観光客が増えて、合鴨農法で栽培した日本米、それを使った味噌、醤油の売り上げが増え、AOACの運営は正常に戻りつつある。今後、組合活動や加工食品の質の向上と販路拡大のための支援は自立経営の確立のためにも継続する必要がある。
- 農村女性によるNGO・アーシャ ビカス セワ サミティ（AVSS）が行ってきた農村女性によるモリンガ、大豆、緑黄色野菜の栽培とそれらの加工、販売及び農作物栽培のための小規模生産者グループ設立支援は、AOACにおいて継続できるように協力・支援を行った。モリンガと大豆加工の主任がAOACの加工部門に移籍し、前保健ボランティア（VHV）と共に農村女性自立のための活動を継続している。



モリンガ加工する農村女性



豆腐を製造する農村女性

## 2. 人材育成支援事業

### 2-1 持続可能な農業・農村開発コース(SCSAD) 運営支援および研修所の環境向上

- 2019年まで行われていた農村リーダーのための約9カ月間の持続可能な農業・農村開発コース (SCSAD) は昨年同様コロナ禍の影響等で中止された。一方、ミャンマー等からの要望があり、2023年度に再開されることになった。
- AOAC 水稲栽培農家のための稲作セミナーを8月、9月、3月の3回実施した。参加者は延べ45人であった。合鴨稲作同時作の利点、有機農業における施肥や病虫害について参加型で学び合う機会を持った。
- ウッタルカンド州 (U.K.州) の山岳地帯での大豆関連事業は2022年3月に開始される予定であったが、インド政府の承認が得られず延期を余儀なくされた。2023年度中に開始されるよう関係当局にはたらきかけた。



稲作に関するセミナーを年3回実施

### 2-2 僻地農村学校の自立運営に向けた総合的教育 支援事業

- アーシャ学校マエダ校の支援を継続した。主に、同校教師の給与の補填のために奨学金の提供を行った。コロナ禍ということもあり、今年度は特別学級、特に、児童の保健教育、環境教育、農業教育、美術教育などは実行されなかった。



アーシャ学校マエダ校の支援継続

### 2-3 裁縫学校の運営支援、裁縫によるフェアトレード製品の開発支援

- 農村女性の収入向上のための事業としてハルディ村、ガジャプール村、チリ村で基礎裁縫クラス(2か月間)の研修を実施した。講師は、農村女性による生産グループ アーシャビカスシャクティ (AVS) のスタッフ また元スタッフが担当した。また、フェアトレードで扱う手工芸品をアップグレードするため、プロフェッショナル研修コース (通年) を支援した。日本のデザイン及び縫製の専門家、または現地の縫製の専門家の指導を受けて商品開発を行った。
- 手工芸品を通して農村女性のエンパワーメントを行っている団体への研修旅行をジャイプール中心に実施した。同時に、AVS商品の販売促進のために販売可能な店舗のオーナーとの面談を行った。この研修に参加したAVSスタッフ・インターンは6名であった。この旅行において農村女性にとってはよい学びとなっただけでなく、今後の活動の良い刺激となった。
- 日本及びインドでのマーケティングの強化、持続的に販売できる商品の開発は、アジア生協協力基金より助成金を受けて実施した。本年度で助成金は最終年度となり、今後経済的な自立運営を目指す。



農村基礎縫製教室の地元講師とAVSスタッフ



高品質縫製品に取り組むAVSスタッフ



日本で販売しているAVS新作商品

### 2-4 農村保健衛生改善支援事業

- 元農村シニア保健ボランティア (SVHV) を中心としたモリンガの葉の粉末加工による都市と農村の住民の栄養向上、農村女性の収入向上・組織強化を図る活動を支援した。
- 活動資金は、日本での手工芸品の販売やモリンガ葉粉末の販売によって賄うことができるように助言活動を行うとともに、インド国内、日本での販売収益で賄った。



モリンガの生葉を洗浄する農村女性たち

## 2-5 農村女性所得創出・地位向上支援事業

- U.K.州及びウツタルプラデシュ州（U.P.州）における大豆栽培の普及による農村女性の組織強化のは、インド政府の承認取り付けができなかったため、今期は実施されなかった。
- 大豆加工品である豆腐の製造と販売は、前VHVやAOACスタッフによって継続して実施されている。特に、冬季のプラヤグラージ市内での直接販売、農村においては結婚披露宴での豆腐料理普及など、助言活動、支援を行った。これらの販売収益によって、この活動に関わる農村女性の賃金支払いはなされている。しかしながら、この活動をより広め、持続可能にするために、より一層の販売拡充が必要とされている。



ウツタルカンド州の山岳地帯。右はコテ村。標高1500m～2000m



コテ村での農村女性たちとの話し合い

## 3. 事業を推進するための調査研究及び、啓発・広報事業

### 3-1 ワークキャンプ・スタディツアー、訪問者 受入

- 2023年3月上旬に予定したインターンシップ研修プログラムは、コロナ感染症の再拡大の不安が残り、最終的に中止した。
- 2022年9月20日に日本大使館、JETRO、インド外務省が共催した日本-インド グローバルセミナーのプログラムの一部を本会とマキノスクールが担った。日本とインドからの学生及び関係者約60名が参加した。NHK Worldでもこの一部が放映された。



参加者との交流 左:サントシユ農場長



日本-インドグローバルセミナー参加者とマキノスクールスタッフ



参加者との交流 中央:三浦現地統括責任者

### 3-2 会報の発行

アジアの活動、マキノスクールの活動内容を会員、支援者に理解していただくために、年3回（4月、9月、12月）会報を発行した。

### 3-3 広報活動の拡充

- SCSAD再開のために 2023年3月よりクラウドファンディング（Campfire）を開始した。
- ホームページ、Facebook、Instagram等による広報活動の拡充を図り、当会の活動をより広く知ってもらい、当会の認知度向上、会員数と寄付の増強を図る試みを継続した。しかし、会員数、寄付の増強までには至っていない。会員との更なるコミュニケーションやネットワーキングが必要とされる。
- 企業のCSR活動へのアプローチを開始し、企業から寄付を募集する活動を継続した。今年度は、日本青年会議所からの寄付金で現地の獣害対策を実施、また、日本商工会議所の小規模事業者持続化補助金に係る補助事業を受けることができ、国内事務所でのモリンガ小分けパッキング用機器の購入支援を受けることができ、さらに、ホームページ内にモリンガ商品を宣伝する専用ページを作成することができた。

### 3-4 日本国内における学生・市民のためのセミナー及び講演の企画、主催、参加

- 7月、栃木県国際交流協会グローバルセミナーでは、前半は、参加者と現地とをオンラインでつなぐ参加型のセミナーとした。後半は、参加者全員で笑いヨガを体験した。
- 11月には、インドカレークッキング、12月はマロニエ医療福祉専門学校にて、「国際看護学」の中でアーシャの活動を紹介した。三浦代表理事が担当した。



とちぎグローバルセミナーにて、オンラインで現地とつなぐ（左） 笑いヨガ体験（右）

### 3-5 次期事業形成調査

- インドにおける製造・販売事業の資金面・信用面、事業の許認可を強化するため、インド国内および日本での販売活動を拡充した。必要な日本での輸入、販売に関する情報を収集した。
- 日本における海外農業人材の受入研修について、農業関係者とその実現について各関係者との話し合いを行った。

### 4. 災害や紛争などによる被災住民への緊急支援 事業

今年度、緊急支援事業は実施しなかった。

## II. その他の事業

### 1. バザー・チャリティ・販売事業

- 特定非営利活動を持続的に発展させる自立した基盤を構築するために、販売担当者が、インド国内および日本において販売活動を拡充した。モリンガ葉粉末は定期購入する顧客が増え、またAVS商品を取り扱ってくれる販売店や商品の共同開発してくれる店舗が増えた。
- インド国内では、地元の大学周辺でオーダーメイドバッグの注文が増えた。また、デリーの常設販売、委託販売の促進を支援した。地元NGO主催のバザールの協賛出店を行った。さらに、インド全国を対象に自前および委託、SNSを通じた通信販売を行った。販売促進のため、デリーやその近郊で開催される祭りやイベントに参加し、出店販売を行うとともに、当会の活動の認知度向上に努めた。
- 日本では、東京、千葉、岐阜、島根、栃木での取引店舗が増えた。栃木県内での出店販売、ASHA STOREでのオンライン販売を促進した。出店販売では、商品を手にとってもらうことと、アーシャの活動を紹介すること、また、モリンガ茶の試飲を通して、おいしくて身体によいモリンガの認知度を上げることに努めた。また、今年度より、手紡ぎ糸を織ったカディコットン生地を使い、スカートやチュニックの縫製に取り組んだが、入荷するとまもなく売り切れとなる人気商品となった。インドの農村事情と当会の活動の認知度向上を図るとともに、フェアトレード商品を手にとっただけの場として、直接販売の場は貴重であった。

### 2. 食品加工事業

- 日本においてモリンガ関連商品の販売活動を拡充するため、インドからモリンガ粉末とヒマラヤ岩塩の供給を受けて、モリンガパウダー、モリンガ塩、ヒマラヤ岩塩など、販売形態に合わせたブレンド、リパック、ラベリングなどの加工事業をアーシャ本部で行った。日本商工会議所の小規模事業者持続化補助金の補助事業で購入した機器がおおいに役立った。

### 3. 演奏会、展示会、図書出版等の文化事業

農村開発や人材育成の支援活動の写真などを整理し、公益財団法人栃木県国際交流協会（TIA）及びJICA筑波主催の栃木国際交流プログラムや栃木県大田原市にあるヒカリノカフェ（蜂巣小学校跡）にて絵画展、写真展、パネル展示を行った。同時に、AVS商品やモリンガの販売を行った。これらの活動を通して、インドの農村事情・食文化や国際協力の必要性・あり方、本会の活動を伝えた。



ヒカリノカフェにて展示と販売

2022年度（第19期）活動計算書（2022年4月1日から2023年3月31日まで）

|              |           |           |           |
|--------------|-----------|-----------|-----------|
| I 経常利益       |           |           |           |
| 受取会費         |           | 366,000   |           |
| 受取寄付金等       |           | 3,523,258 |           |
| 受取助成金等       |           | 1,310,681 |           |
| 事業収益         |           | 1,584,249 |           |
| その他収益        |           | 1,402,194 |           |
| 経常収益計        |           |           | 8,186,382 |
| II 経常費用      |           |           |           |
| 1. 事業費       |           |           |           |
| (1) 人件費      | 1,002,000 |           |           |
| (2) その他経費    | 4,246,167 |           |           |
| 事業費計         |           | 5,248,167 |           |
| 2. 管理費       |           |           |           |
| (1) 人件費      | 1,044,357 |           |           |
| (2) その他経費    | 1,414,897 |           |           |
| 管理費計         |           | 2,459,254 |           |
| 経常費用計        |           |           | 7,707,421 |
| 当期経常増減額      |           |           | 478,961   |
| III 経常外収益    |           |           |           |
| 経常外収益計       |           |           | 92,092    |
| IV 経常外経費     |           |           |           |
| 経常外経費計       |           |           | 0         |
| 税引前当期正味財産増減額 |           |           | 571,053   |
| 法人税、住民税及び事業税 |           |           | 81,400    |
| 当期正味財産増減額    |           |           | 489,653   |
| 前期正味財産増減額    |           |           | 7,200,492 |
| 次期正味財産増減額    |           |           | 7,690,145 |

貸借対照表（2023年3月31日現在）

|            |           |           |            |
|------------|-----------|-----------|------------|
| I 資産の部     |           |           |            |
| 1. 流動資産    |           |           |            |
| 現金預金       | 5,383,570 |           |            |
| 棚卸資産       | 223,187   |           |            |
| 流動資産合計     |           | 5,606,757 |            |
| 2. 固定資産    |           |           |            |
| (1)有形固定資産  |           |           |            |
| 建物         | 28,526    |           |            |
| 什器備品       | 0         |           |            |
| 土地         | 5,000,000 |           |            |
| 有形固定資産合計   | 5,028,526 |           |            |
| 固定資産合計     |           | 5,028,526 |            |
| 資産合計       |           |           | 10,635,283 |
| II 負債の部    |           |           |            |
| 1. 流動負債    |           |           |            |
| 短期借入金      | 764,561   |           |            |
| 未払金        | 694,713   |           |            |
| 未払法人税等     | 81,400    |           |            |
| 仮受金        | 1,400,000 |           |            |
| 預り金        | 4,664     |           |            |
| 流動負債合計     |           | 2,945,138 |            |
| 2. 固定負債    |           |           |            |
| 固定負債合計     |           | 0         |            |
| 負債合計       |           |           | 2,945,138  |
| III 正味財産の部 |           |           |            |
| 前期繰越正味財産   |           | 7,200,492 |            |
| 当期正味財産増減額  |           | 489,653   |            |
| 正味財産合計     |           |           | 7,690,145  |
| 負債及び正味財産合計 |           |           | 10,635,283 |

## アーシャを応援する

### ボランティア活動に参加する

国内では各種イベントなどをお手伝いいただける方を募集しています。また、現地でもインターンを募集しています。是非、お問い合わせください。

### フェアトレード商品を購入する

フェアトレード商品をご購入いただくと、売上が商品を生産した農村女性に還元されます。

### モリンガパウダー・モリンガ塩・ヒマラヤ岩塩



モリンガは90種類以上の豊富な栄養素を含む食と健康を支えるスーパーフード。ヒマラヤ岩塩とブレンドしたモリンガ塩もあります。



### ハンディクラフト商品



特定非営利活動法人

# アーシャ

アジアの農民と歩む会

## 特定非営利活動法人

## アーシャ＝アジアの農民と歩む会

〒329-2703

栃木県那須塩原市槻沢 8 3 - 1 7

TEL : 0287-47-7840

FAX : 0287-47-7841

Email : [info.jp@ashaasia.org](mailto:info.jp@ashaasia.org)

## アーシャの会員になる・寄付をする

アーシャの活動は、会員の年会費、支援者の寄付金、政府系や民間の協力基金の助成金などを有効に活用して運営しております。助成金は、期間・用途が限られますので、持続的な活動は、皆様の未長いご支援により成り立っております。

会員へのご入会をお願いいたします。

### <年会費>

|           |    |            |
|-----------|----|------------|
| ○正会員      | 1口 | ¥5,000 /年  |
| ○賛助会員     | 1口 | ¥3,000 /年  |
| ○終身正会員    | 1口 | ¥50,000    |
| ○終身賛助会員   | 1口 | ¥30,000    |
| ○団体正会員    | 1口 | ¥20,000 /年 |
| ○団体賛助会員   | 1口 | ¥10,000 /年 |
| ○終身団体正会員  | 1口 | ¥100,000   |
| ○終身団体賛助会員 | 1口 | ¥50,000    |

### 年会費・寄付の振込先

<ゆうちょ銀行 電信振替>

口座番号 : 00160-0-315147

口座名義 : アーシャアジアノノウミントアユムカイ

<ゆうちょ銀行 通常払込>

記号 : 10700 番号 : 20520001

口座名義 : アーシャアジアノノウミントアユムカイ

<他の金融機関から送金>

金融機関名 : ゆうちょ銀行

〇一九 (ゼロイチキューウ) 支店

預金科目 : 当座 口座番号 : 0315147

口座名義 : アーシャアジアノノウミントアユムカイ



最新情報は以下をご欄ください。

アーシャ・ホームページ :

<http://ashaasia.org/>

アーシャ・Facebook :

<http://www.facebook.com/asha.asia.page>

サム・ヒギンボトム農工科学大学

継続教育学部 (MSCNE) ホームページ (英語)

<http://mscne.org/>

